

横須賀製鉄所開設による市街形成 (1)

岩 崎 義 朗*

The Formation of Town Owing to Yokosuka Iron-Works. (Ship Yard) (I)

(With 4 figures)

Yoshirō IWASAKI

1. はじめに

現在の横須賀市はその港湾施設を含む元日本海軍の軍用地の大部分をアメリカ合衆国海軍の軍事基地として供与、占有されている。このような現状はそれだけの存在理由と価値があるからで、しかもそれにはそれだけの史的発展をその背景としている。

ここで、その史的発展の発端ともいべき製鉄所が設置されるに至った事情は横須賀市史にかなり詳細に記述されているが、製鉄所開設後における横須賀村は短期間の間に驚くべき発展を遂げた。殊に開設後の15年間は戸数、人口共に急速に膨張し、今日の横須賀市街の基礎を形成したといってもよい。この間の様子は横須賀百年史にもほとんど筆が及んでいないので、ここにその間の状態を地区を分けて述べたい。

現在の横須賀市が神奈川県において第三番目の人口の多い都市であるが、その発展の原因が国家的要請によって製鉄所設置という都市発展の要因が与えられた。それは地理的位置が、そしてまた地形的構造が適切さを位置づけたものであった。それだけに発展の出発や形成過程が比較的近代に属するので、可能な限りにおいてこれを明らかにしておきたい。

2. 製鉄所開設前の横須賀村

製鉄所開設前の横須賀村は江戸時代を通じてほとんど大きな変化はなかったように考えられる。それは江戸時代に記された地図や記述を見ても変化が見られないからである。

まず江戸時代の状態から見ていきたいが、それに先だって横須賀村の範囲を文化八年(1811)年閏二月に描かれた「相州三浦郡横須賀村」の絵図によりながら「新編相模風土記稿」巻之百十五①によって対照してみると小名として次のごとく七字があげられているが、その下にさらに小字が記されている。

坂 本一菖蒲谷、夏かり畑、関ヶ谷、小池谷、大谷、かまが谷

塩 入一柏木谷台、八坂、柏木谷、たい久保、桜山、唐沢、田台、大日よけ、棚子堀、水ヶ浦、

汐入、汐留新田、松本、汐田、むじな谷、ふとう、八ツ堀、地藏堂

横須賀一中横須賀、大滝、山王、横須賀、宿、藪、堂口、向谷、磯崎、内浦、湿ヶ谷、丸山、白浜
楠ヶ浦一小白浜、坂口。谷戸、向、芝原、籠山

塔ヶ谷一御立台、井戸ヶわき、うか島、白仙、古海、おくまが谷、しばく浦

堂ヶ谷一十日塚、栄山、松ヶ崎、鳶ヶ鼻、大畑、禰志こ、三ヶ保

長 峯一勝力、松ヶ浜、とをうや、なとま、小松浜、う島、蠣ヶ浦、焼崎

泊 り一桐ヶ崎、をと浜、きつ禰、大竹、おせが崎、小長浦

以上が絵図に記載されている地名である。

* 横須賀市立商業高校

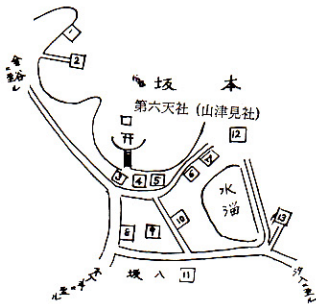
そしてこの横須賀村の地域は現在一般に下町と呼称されている。これに対して後に合併されていく豊島村は上町と呼称されるようになる。江戸時代は沿岸地域は半農半漁的生活をするまた他域は農業をする者が大部分で、江戸へは陸路十三峠から戸塚—江戸、海路では金沢への渡船が行われていた。

この横須賀村の戸数が201戸の頃、西浦賀578戸、三崎597戸、長井545戸、東浦賀450戸という状態でこれに次ぐのが小坪の311戸、二百戸代では

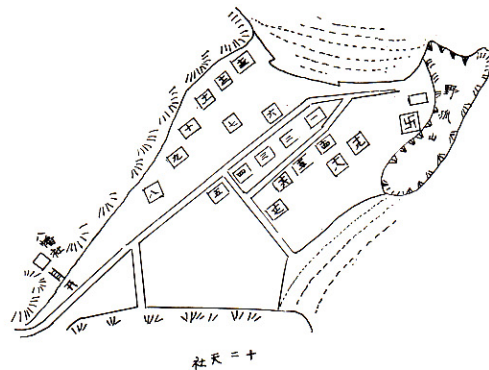
鳴居村	275戸
堀内村	272戸
浦郷村	267戸
上宮田村	263戸
秋谷村	261戸
大津村	261戸
長沢村	221戸
久里浜村	214戸
公郷村	203戸

これに次ぐ走水村のごときは119戸を数えていたという順序であった。

ここに第1図に見るがごとき地域に第2図のごとく設計計画された。したがってその規模の大きなことは差し当って多数の人足が供給され、役人やこれを差図する仏人らも漸次数を増してくるに至った。したがって市街地も急速に形成されるようになった。



第3図



第4図

ここで市街地が形成されるのは横須賀湾を抱く周辺で離れている坂本や泊りはあまり大きい影響がない。ほとんど江戸時代のままといってもよい程で、わずかな家の増加が見られる程度である。以下市街地の作図と説明は木村作助の手になったものである。原図は畑宗一氏が所有されている。しかし、これは木村作助の記憶をたどったもので年代の錯誤などがあるのでこれを壬申戸籍簿によって訂正を行ったがどうしても脱落が訂正出来ない部分もある。今変化の少ない坂本と泊の家並および氏名、職業を対照しておいた。第3図、第4図参照のこと。

この横須賀村の大きい変化は字横須賀が最も激しく、次いで塩入である。塔ヶ谷および堂ヶ谷は直接製鉄所建設の用地となるわけで、横須賀の市街は漸次中横須賀へ、さらにまた汐入が変化し、田畑を埋立てて市街地に変っていく。

木 村 氏
泊壬 申 戸 籍
九 番 地

番号	氏 名	職 業	異 同	屋敷 番号	氏 名	
1	小 沢 弥 七	漁農, 運送		1	八 幡 社	
2	小 沢 弥 総 兵 衛	"		2	小 沢 梅 吉	漁業
3	小 沢 七 左 衛 門	"		3	小 沢 彌 右 衛 門	農間 船乗
4	小 沢 兵 左 衛 門	"		4	小 沢 兵 左 衛 門	農間 漁業
5	小 沢 弥 右 衛 門	"		5	小 沢 七 左 衛 門	農間 漁業 造船寮 人足
6	鈴木利右衛門	"		6	小 沢 弥 惣 兵 衛	農間 船乗, 漁業
7	小 沢 久 右 衛 門 (徳)	"		7	鈴木曾右衛門	" 造船寮 人足
8	小 沢 鉄 藏	"	徳藏の誤 梅吉長男	8	鈴木作右衛門	" 漁業, 船乗
9	小 沢 五 兵 衛 (右)	"		9	鈴木与右衛門	" 船乗
10	鈴木彦左衛門 (左)	"	彦左エ門は彦右 エ門の誤	10	鈴木治右衛門	" 漁業
11	鈴木六郎右衛門	"	六郎右エ門は 六郎左エ門の誤	11	鈴木市郎兵衛	" 漁業
12	鈴木津右衛門	"		12	鈴木市郎右衛門	" 漁業
13	鈴木重右衛門	"		13	宗 慶 寺	曹洞宗 良長院末 無住 代判
14	鈴木治右衛門	"		14	小 沢 弥 七	" 造船寮 人足
15	鈴木作右衛門	"		15	鈴木重右衛門	" 漁業
16	鈴木惣右衛門 (鈴木)	"		16	鈴木津右衛門	" 漁業
17	小林与右衛門	"	小林は鈴木の誤	17	鈴木六郎左衛門	" 船乗
18	鈴木市郎兵衛 (松藏)	"		18	鈴木彦右衛門	" 漁業
19	鈴木松兵衛	"	鈴木市郎右エ門 の長男	19	鈴木利右衛門	" 漁業
20	宗慶寺庫裏			20	小沢久右衛門	" 船乗
卅	宗 慶 寺	薬師如来 良長院末		21	小 沢 五 兵 衛	" 漁業
卅	八 幡 宮			22	八 雲 社	

1. 木村氏の中 1 鈴木松兵衛と戸籍の 12 鈴木市郎右エ門とが違っている。これを照応させれば全部、符号する。
2. 八雲社は木村氏にはない。
3. 宗慶寺庫裏を木村氏は入れているがこれを除けば民戸数は同じとなる。
4. 八雲社の位置明瞭ならず。

木村氏による
坂本 (14 戸)

一番地 (明治5年)
(壬申戸籍) (13 戸)

番号	家名	職業				
1	飯塚 鍊五郎 (13)	農業	伝左衛門	1	飯塚 伝左衛門	農
2	飯塚 源蔵 戊, 4.10 (未)	"	源右衛門	2	飯塚 源右衛門	"
3	飯塚 平蔵	米, 酒		3	山津 見社	
4	飯塚 和助 (23)	農業	平右衛門	4	飯塚 平蔵	農間 絞り油 米酒売, 横仲買
5	飯塚文左衛門	石工		5	飯塚 林七	
6	飯塚 林七	農業		6	飯塚平右衛門	
7	飯塚文右衛門	"		7	飯塚文左衛門	農間 石工
8	飯塚安右衛門	"		8	飯塚文右衛門	農間 濁酒製造 絞油, 糍, 味噌, 質
⑨	飯塚 辰五郎 (14)	"	文右衛門	9	飯塚安右衛門	農
10	飯塚 儀助 (12)	"		10	飯塚むな(義輔)	"
11	長瀬 万吉	"	八郎左衛門	11	長瀬八郎左衛門	"
12	飯塚九左衛門	"籠製造		12	飯塚九左衛門	農間 竹細工
13	飯塚才次郎 (37)	農, 行商	初五郎	13	飯塚 初五郎	日雇
卅	第六天社					

飯塚治郎左衛門亡長女

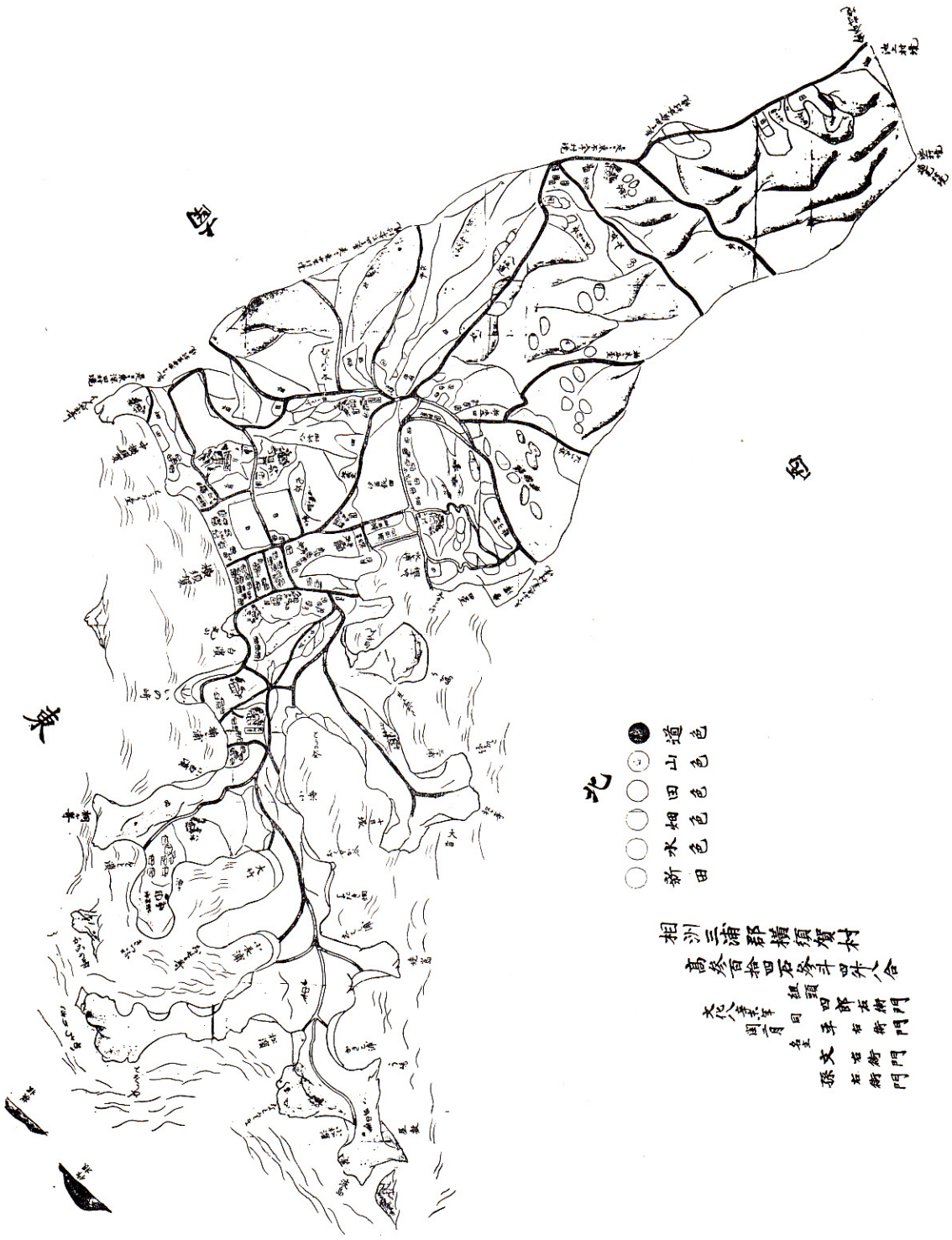
() 内数字は, 壬申戸籍の年令

— は壬申戸籍には戸主でなかった

未は, 未だ出生せず

戊 (明治7年), 4.10 は出生の年月日

1. 飯塚辰五郎 は, 飯塚文右衛門の次男で分家したものである。したがって, 明治5年には未だ家はなかった筈である。
(8 戸)
2. 木村氏のもの, 明治5年当時は未だ幼少で, 当主ではなかったから, 恐らくはこの図を想起された時期は 15 年~20 年前後のことかと考えられる。殊に, 飯塚源蔵は, 明治7年の出生であるから, 当然戸主ではなかった筈である。
3. 明治5年当時は, 家は 13 軒 内 {社 1 戸 昔は {社 1 戸
 {民家 12 戸 {民家 11 戸} であったと考えられる。
4. 飯塚初五郎 は, 田島を所有せぬ, 他 (鎌倉郡平戸村) より転住せし者である。転居住の年月日は不明。
5. 山瀬社は第六天社と同じで, 大山祇命を祀る。
6. 以上のことから, 木村氏原図の中から, 飯塚辰五郎を除けば, 壬申戸籍の戸数と合うことになる。
7. 元治元年の図によれば坂本は 5 軒しか描かれていない。



- 北
- 道色
 - 山色
 - 田色
 - 畑色
 - 水色
 - 新田

相洲三浦郡檜須賀村
 高參百拾四石參斗四升合
 大代業草 組頭 四郎左衛門
 國月 同 平右衛門
 名至 文右衛門
 孫 文右衛門

PLAN GÉNÉRAL INDICANT LA SITUATION DES TRAVAUX EN AVRIL 1959
 LES SONDES SONT EXPRIMÉES EN MÈTRES ET RAPPORTÉES AUX BASSES MERS ORDINAIRES

..... ANCIENNE POSITION DES MONTAGNES ..
 - - - - - ANCIENNE POSITION DE LA MER ..
 ——— CONDUITS D'EAU POUR ALIMENTATION ..
 * * * * * EGOUT

